

# 旧街道沿いのホールのある家

正会員 ○石川昂\*  
正会員 高安重一\*\*

# Atrium House along The Old Highway

○ISHIKAWA KO\*  
TAKAYASU SHIGEKAZU\*\*

\* アーキテクチャー・ラボ石川昂建築設計事務所  
\*\* 鹿児島工業高等専門学校

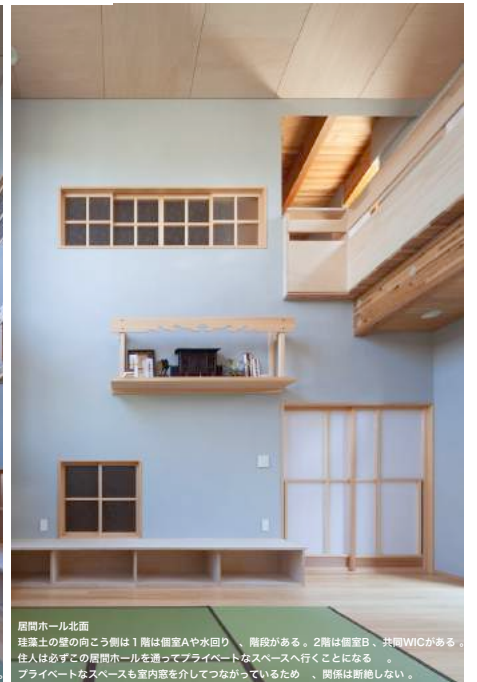
\* Architecture-lab IshikawaKo Architects  
\*\* National Institute of Technology , Kagoshima College

## 旧街道沿いのホールのある家

東京の旧街道沿いにある元商店の建替え計画。元商店は廃業しているものの近所の人がふらっと立ち寄りたり、挨拶を交わしたりと旧街道の街の風景を作り出しているように思えた。また、お祭り際には店舗部分が親戚や友人、知人たちがたむろする場となり、ハレの日の風景も作っていた。旧街道沿いの集まる風景を保ちながら、住人が旧街道と適度な距離を取り、快適に生活できる建築が良いのではないかと考えた。居間ホールと呼ぶ2層吹抜けた空間が中心にあり、東西面から多くの光が入り込み半分外のような明るさと大きな気積を持っている。南北面には各室が室内窓を介してつながってその明るさと気積を享受している。また、将来的な生活の変化や家族構成の変化を考え、居間ホールはニュートラルな空間となるようにしている。

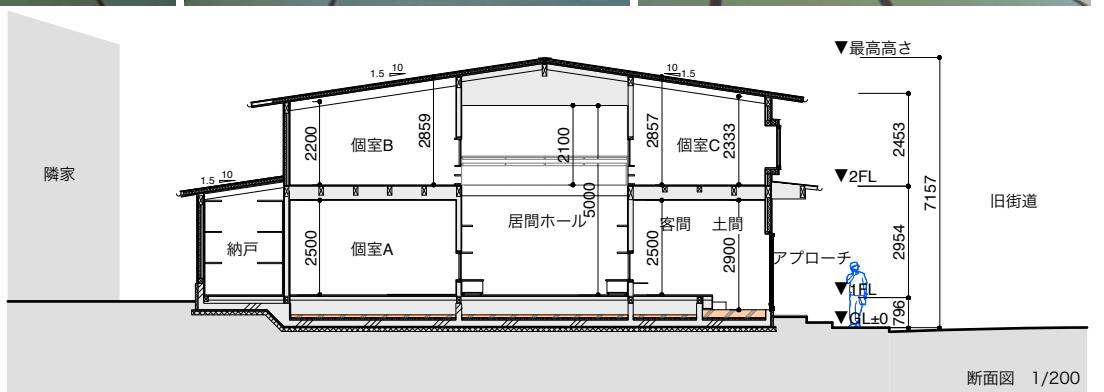
基礎には蓄熱式温水床暖房を敷設し、住宅全体を温められる。旧街道沿いの風景を保ちながらも快適な空気環境で生活できるようになっている。また、全面珪藻土塗りの室内壁も快適な生活の一助となっている。

このホールを含んだ構成の木造一戸建住宅は住人の増減や時間経過など色々な変化を許容し、旧街道と共に生きて行けるような強さが持たてたのではないかと考えている。



## 同居混在

新たに製作した建具には親族の形見のステンドグラスや旧商店で使っていた化粧ガラスを入れている。旧商店で利用していた欄間は書斎の欄間として再利用している。新旧のものの寸法を整え、なめらかに同居混在できるようにすることで、この住宅は人も物もいろいろな状態でそこに在ることができるようにと考えている。



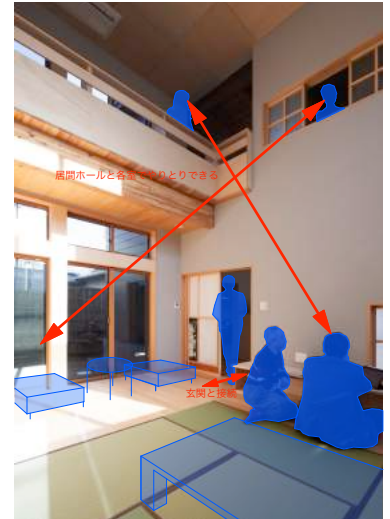
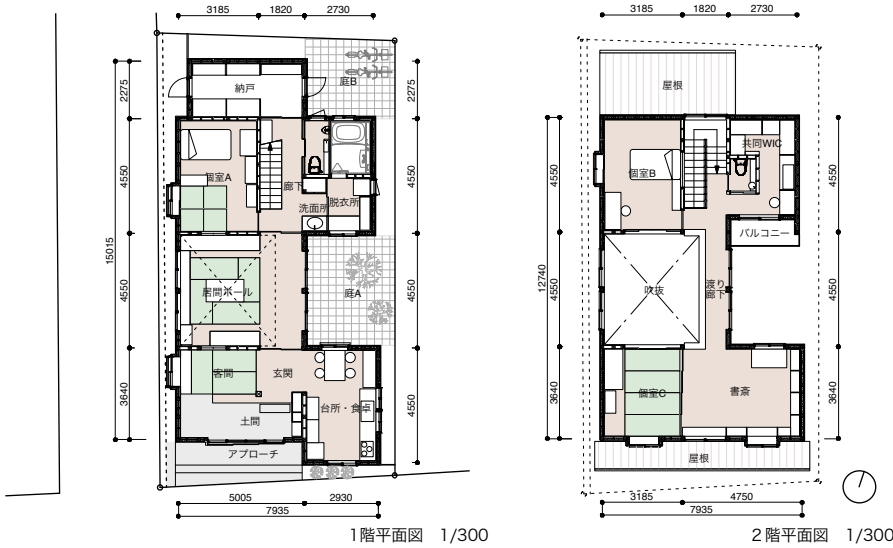
所在地：東京都青梅市  
 主な用途：一戸建ての住宅  
 敷地面積：160.95m<sup>2</sup>  
 建築面積：101.15m<sup>2</sup>  
 延床面積：168.07m<sup>2</sup>  
 キーワード：木造・一戸建住宅・居間

Location : Oume-shi, Tokyo  
 Main Use : Detached House  
 Site Area : 160.95 m<sup>2</sup>  
 Building Floor Area : 101.15 m<sup>2</sup>  
 Total Floor Area : 168.07 m<sup>2</sup>  
 Keywords : Timber Structure, Detached House, Living Room

変化への対応

大人3人が生活する少し特殊なこの住宅では、居間ホールはニュートラルな場所となるようにしている。ニュートラルな空間は将来的な生活の変化や家族構成の変化、この住宅の用途の変化にも対応する。座敷としての利用、椅子と机での生活など使う家具の変化に対応できるように、シェアハウスとしての利用、玄関ホールと連動した小高い、お祭り際には親族や街の人達の集会所のような役割と様々な用途の変化も想定している。

居間ホールは各部屋とつながる室内窓から様子が感じられ、その他の仕上げを変えて、住宅内でのパブリック感を高めている。和洋折衷の空間は旧商店からの古いものと新築でつくられた新しいものを違和感なく同居混在させる。過去から現在が同居混在できているということは、これからの社会や街の変化による、ものの変化や追加を許容すると考えている。



ホール使用イメージ

